

調査問題の内容

学習指導要領に示されている各領域に基づき、スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く問題やウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きに効果を書き加える問題、作品の結末での登場人物の心情を解釈し、話の展開を取り上げて書く問題などが出題されています。

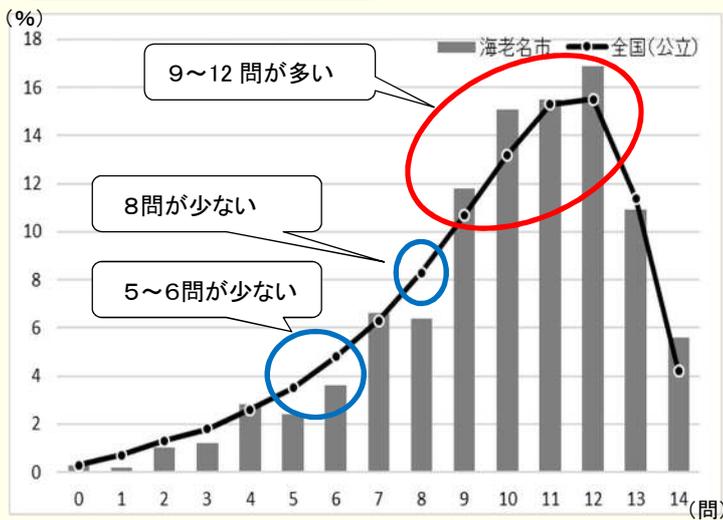
全体の結果

	海老名市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との比較
平均正答率	71.2%	69.0%	69.0%	2.2
平均正答数	10.0/14問	9.7/14問	9.7問 /14問	0.3

平均正答率…平均正答数を問題数で割った値の百分率。

正答数分布グラフ

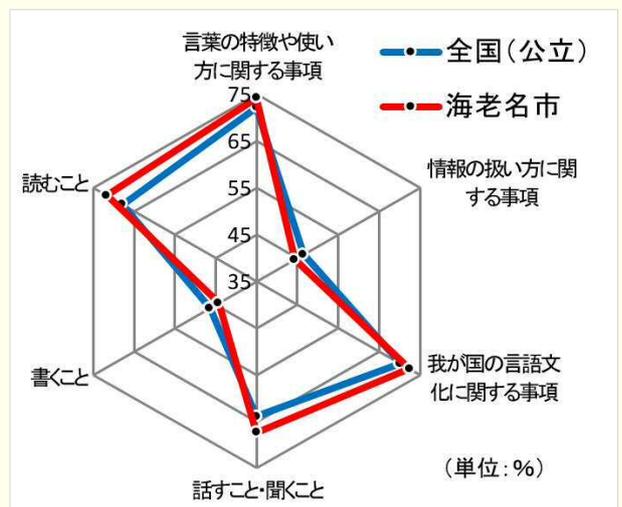
(横軸:正答数、縦軸:割合)



- * 正答率 50%以下(0~7 問)の生徒の割合は 18.1%です。【全国は 21.3%】
- * 正答率 80%以上(12~14 問)の生徒の割合は 33.4%です。【全国は 31.1%】
- * 中央値は 10 問です。【全国は 10 問】

中央値…正答数を大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。

学習指導要領の領域等の平均正答率



「読むこと」、「話すこと・聞くこと」の領域は、全国と比較して、上回っています。

分類・区分別集計結果

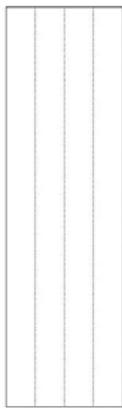
分類	区分	対象問題数	平均正答率 (%)			平均無解答率 (%)		
			海老名市	全国(公立)	全国との比較	海老名市	全国(公立)	全国との比較
学習指導要領の領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	6問	74.3	72.2	2.1	3.8	4.9	-1.1
	情報の扱い方に関する事項	1問	44.3	46.5	-2.2	4.7	9.0	-4.3
	我が国の言語文化に関する事項	3問	72.5	70.2	2.3	0.8	1.0	-0.2
	話すこと・聞くこと	3問	67.4	63.9	3.5	4.4	6.7	-2.3
	書くこと	1問	44.3	46.5	-2.2	4.7	9.0	-4.3
問題形式	読むこと	2問	71.8	67.9	3.9	4.8	7.2	-2.4
	選択式	6問	76.3	73.7	2.6	0.5	0.6	-0.1
	短答式	5問	71.8	70.3	1.5	2.6	3.5	-0.9
	記述式	3問	59.8	57.4	2.4	8.5	12.8	-4.3

海老名市の結果についての分析

- 平均正答率、平均正答数は、全国と比べてやや上回っています。
- 平均正答率が全国を上回った問題は、14問中13問です。また、平均正答率が80%以上の問題は、14問中6問(全国も6問)です。
- 問題形式から見ると、平均正答率が80%以上の6問のうち、4問が「選択式」の問題です。
- 無解答率が全国より高かった問題はありません。しかし、海老名市の平均無解答率を見ると、全国平均と同様に、記述式の無解答率が高い傾向がみられます。

全国の正答率と差が見られた問題の例

中学校国語のすべての問題は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。



3 文学的な文章を読む（「都会のビーチ」）

趣旨 場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができるかどうかをみる。

正答は省略

◇この問題の正答率

海老名市	78.7%	
全国（公立）	73.8%	（全国との比較 +4.9）

◆この問題の無解答率

海老名市	9.0%	…全問題の中で2番目に高い数値
全国（公立）	13.3%	（全国との比較 -4.3）

考 察

- 文学的な文章を扱うときに、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えたり、場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈したりすることについて成果がみられます。
- 自分の考えを話したり書いたりする際、理由・根拠・意図を明確にし、筋道立てて論述できるようにするための指導の工夫が求められます。

指導の改善にむけて

◆根拠を明確にして書くために

- 文章の構成や展開、表現の仕方について分析するだけでなく、そのような表現をした書き手の目的や意図を読み取ったり、その効果について考えたりすることができるように指導します。また、叙述を根拠に自分の考えを書いたり話したりする学習を意識的に取り入れていきます。

◆まとめの言語化の充実

- 授業の終末で、その授業を通してどんなことが学べたのか、どんなことが分かったのか、どんな知識の活用ができたのか等、じっくりと長文を書くことで振り返ることができるよう指導します。